

# HIV 感染透析患者の受入れとネットワークの構築について

日ノ下文彦

令和2年10月11日/静岡県「第56回静岡県腎不全研究会」

## 要 旨

血液透析（HD）導入となるヒト免疫不全ウイルス（Human Immunodeficiency Virus; HIV）感染患者は少しずつ増えている。しかし、HIV 感染透析患者の受入れは十分に進んでおらず、その主な原因はいまだに続く HIV 感染症に対する誤解や偏見、認識不足にあると言える。厚労省「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」は、HIV 感染患者を受入れてくれる維持透析施設を確保するため、全都道府県で HIV 透析ネットワークを構築していく方針を打ち出し、その呼びかけに応じた都府県ではネットワーク構築が進みつつある。

## 1 HIV 感染患者の維持透析導入の増加

わが国の HIV 感染者数は累計で約 3 万人以上となっており<sup>※1</sup>、慢性腎臓病（chronic kidney disease; CKD）が進行して、HD 導入される患者が増えている。首都圏のような人口密集地域だけでなく、静岡県のような地方でも HIV 感染者数は比較的多く、過去に判明しているだけで 800 人はいる。

抗ウイルス療法の進化により、HIV 感染症の生命予後は著明に改善しているうえ、HIV 感染患者の CKD 合併率が高いため、将来、HD 導入となる患者はますます増加するものと考えられる。そこで、厚労省「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」（以下、研究班）は、受入れ促進のため各都道府県で HIV 透析ネットワークを構築する方針を打ち出したが、比較的 HIV 感染者数が多い静岡県でも是非構築して頂きたいと考えている。

## 2 HIV 感染患者の受入れと HIV 透析ネットワーク構築について

2017 年の全国調査では、HIV 感染患者の受入れがなかった 1,571 の HD 施設のうち、「今後は受入れる方針」と回答した施設が 22.3%、「今後、受入れを検討する」と回答した施設が 33.2% と受入れに前向きな施設が過半数を超えた。また、「受入れることは難しい」とした施設は 44.2% であった<sup>1)</sup>。同様の 2011 年の調査では、「今後は受入れる方針」と回答した施設が 15.7%、「今後、受入れを検討する」と回答した施設が 30.7% だったので、受入れは少し進んだ印象である<sup>2)</sup>。

HIV 感染 HD 患者の受入れがそれほど進まない理由として、HIV 感染症に対する誤解や偏見、認識不足がまだあることが挙げられる。実際、2016 年から 2017 年に HIV 感染 HD 患者の受入れに関

する講演会場（全国8カ所）で実施したアンケートによると、聴講者の52.0%が「HIV感染症の実態について思い違いをしていた」と回答した。また、講演開始時の段階で「HIV感染患者の受入れに否定的だった」回答者の28.3%が、講演後には受入れに肯定的となっていた<sup>3)</sup>。つまり、HIV感染症の予後が治療の進歩により格段に改善して致命的な疾患ではなくなったこと、HIV感染患者に対するHDの手順が標準的予防策を遵守さえしていれば問題ないこと、HD医療従事者が万一HIVの血液に曝露しても、曝露後予防（post-exposure prophylaxis; PEP）により感染の危険性がないこと<sup>4,5)</sup>、などを十分に理解できれば、誤解や偏見、不安は払拭されることがわかる。

研究班では、HIV感染者を受入れてくれるサテライトを確保するため、各都道府県でHIV透析ネットワークを構築する方針を打ち出した。そして、2019年、日本透析医会の協力により各都道府県支部会にネットワーク構築を依頼し、既にネットワークが構築されていた北海道<sup>6)</sup>、群馬県<sup>7)</sup>以外に、少なくとも25都府県が遅くとも2022年度までにネットワークを構築するとの回答を得た。

東京都透析医会では、2019年以降、ネットワーク構築に着手し、現在、ネットワークはほぼ目標に近い形で完成しつつある。今後は、東京都や北海道などで蓄積されたノウハウを活かし、静岡県を含む各府県でネットワーク構築が進展し、HIV陽性の維持HD患者が市中のサテライトで支障なくHDを受けられるようご協力をお願いしたい。

本文の内容は、第56回静岡県腎不全研究会における講演をまとめたものである。また、本研究および活動は、厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」により実施された。

#### 文 献

- 1) 日ノ下文彦, 秋葉 隆: HIV感染患者における透析医療の推進に関する第2次調査. 透析会誌 2019; 52: 23-31.
- 2) 秋葉 隆, 日ノ下文彦: HIV感染患者における透析医療の推進に関する調査. 透析会誌 2013; 46: 111-118.
- 3) 日ノ下文彦, 勝木 俊, 照屋勝治, 他: HIV感染透析患者受入れのための講演会の意義について—アンケートの結果報告. 透析会誌 2018; 51: 313-319.
- 4) HIV感染患者透析医療ガイド改訂版策定グループ: HIV感染透析患者医療ガイド改訂版. 東京, 厚労省エイズ対策政策研究事業 HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班, 2019.
- 5) 日本透析医会「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」改訂に向けたワーキンググループ: 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン (五訂版). 東京, 日本透析医会, 2020.
- 6) 遠藤知之, センテノ田村恵子, 渡部恵子, 他: 北海道 HIV 透析ネットワークの構築とその有効性の検討. エイズ会誌 2018; 20: 199-205.
- 7) 小川孔幸, 柳澤邦雄, 永井康男, 他: 群馬県の HIV 感染者受け入れに関する透析施設向けアンケート調査. エイズ会誌 2015; 17: 174-178.

#### 参考 URL

- ‡1) 厚生労働省エイズ動向委員会「令和元(2019)年エイズ発生動向年報(1月1日~12月31日)」<https://api-net.jfap.or.jp/status/japan/nenpo.html> (2020/12/31)